

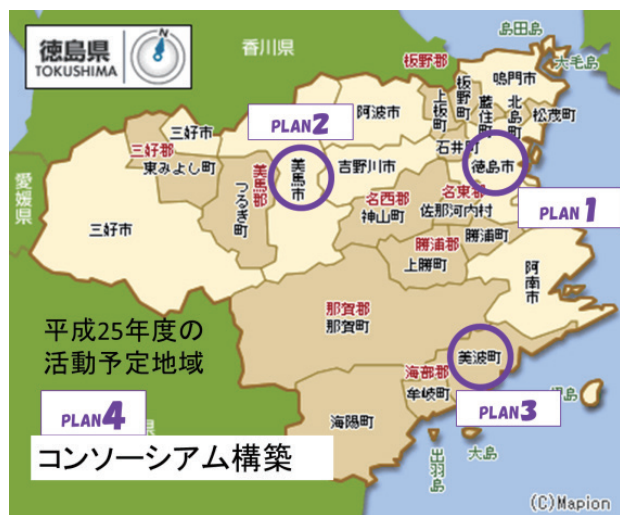


留学生との交流による多文化共生のまちづくり ～とくしま異文化キャラバン隊 2017～

徳島大学 Gehrtz 三隅 友子

はじめに

徳島大学は、2013-2015 年度の 3 年間に文部科学省の留学生交流拠点整備事業「異文化キャラバン隊による国際化と新たな地域の創成 - 留学生との交流による多文化共生まちづくり -」を実施しました。そして 2016 年度からは文化庁の『『生活者としての外国人』のための日本語教育事業』スタートアッププログラム（3 年計画）を海部郡美波町、さらに 2017 年度からは美馬郡つるぎ町の両町と地域の多文化共生を促進するさまざまなイベントを進めています。留学生と地域住民の交流活動とこれからの「多文化共生のまちづくり」の一步を踏み出した例を紹介します。



徳島県内の活動拠点

とくしま異文化キャラバン隊

徳島県を徳島市・西部、南部の三地域に分け、次の 4 プランを現在も継続しています。

PLAN1：大学を拠点とし、市内の組織や団体、教育機関などとの双方向型の教育活動

PLAN2：美馬市「協町劇場オデオン座」での演劇を通して、文化財の活用を促進する活動

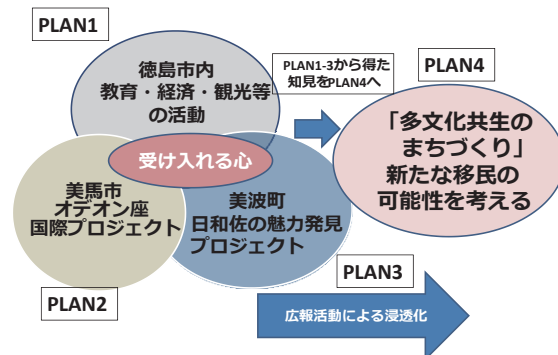
PLAN3：美波町の「日和佐八幡神社秋祭り」の支援を通して地域の活性化を考える活動

PLAN4：1-3 を総合的に把握し、広報を含め、新たな目標を設定する活動

いずれも、徳島大学が中心となり、留学生（徳島県下 6 高等教育機関約 350 名在籍。2017 年時点。）と日本人学生で構成する「異文化キャラバン隊」を活動ごとに組織し、各地域へ派遣することにより、地域の人々との異文化交流を通じて「外国人が身近にいることが当たり前」の国際社会」さらに「文化や習慣の違いを認め合いながら暮らすまちづくり」を目指しました。

事業終了後の今も、2016 年度は活動数 36、参加のべ人数 509 人、2017 年度は活動数 34、参加のべ人数 424 人という実績を残すことができました。

徳島は外国人の人口比率も 1 % 未満の地域が多く、技能実習生、介護士、日本人の配偶者、外国語指導助手らは、住民にとって身近にいる存在でないのが特徴です。そして、一方では少子高齢化、過疎化の対応策として、県外からの移住者を積極的に受け入れ、定住を促進し、地域の活性化を図ろうとしている動きもあります。在住外国人も巻き込んだ留学生との交流を進めていく中で、現在では、移住者の中に外国人を含める可能性を提案しています。



とくしま異文化キャラバン隊活動

新たなまちづくりの提案

次の四つの意識改革を呼びかけています。

四国遍路の「おもてなし」の心を土台に、移住を目指す人に「同化」ではなく、どうし

たら「共存」しつつ新しい社会が作っていきけるかを、共に考え、実行していく必要があると考えます。

キャラバン隊が地域で活動するにつれて、地域の人たちとのつながりがより深くなり、ひとくりにしていた外国が人を介した身近なものになりつつあるという実感でできています。目標に向けてさらに時間をかけた取り組みが必要なのでしょう。

これまでの留学生のコメントからは、祭りへの参加や日本語劇を通して、日本語を駆使して一般の方々とやりとりすることの楽しさ、母国では知りえなかった徳島（方言を含めて）を体験的に学ぶことできたことが、困難を乗り越えた気持ちと共に語られています。何よりも、交流の中でさまざまな「対話」の場を生み出していることがこの活動の役割と考えています。

提案 多文化共生のまちづくり

<徳島型の移民社会>

- 1) 日本語を共通語に ⇒ 通じる日本語
- 2) 文化(考え方や習慣)を分かり合う
- 3) 「おもてなし」から「おもてなしを越えて」へ
- 4) 受け入れる心を育てる

「同化」から「共存」へ



太鼓屋台で海へ(男性)

地域の人と町歩き(女性)

日和佐八幡神社秋祭り< PLAN2 >

今後に向けて

今年で6年目を迎えますが、キャラバン隊の活動の場と一緒に作ってきた自治体を始めとする、さまざまな県内の団体との関係性が大きな収穫物でした。互いの目的との照合や実施のためのさまざまな調整のために丁寧な「対話」をする必要があったのです。今ではキャラバン隊を受け入れてくださった側からの資金によって活動



オデオン座で熱演する留学生ら< PLAN3 >

が継続できているものもあります(参考資料3、協力団体などの声をまとめた報告書)。また祭り支援からつながりができた美波町は、在住外国人の日本語教室の開設と外国人と日本人の交流イベントの実施を徳島大学と共に進めています。つるぎ町も後に続いています。二つの町は、徳島大学を中心として連携し、日本語教室空白地域を無くす努力を互いに進めています。

現在大学と地域は課題の解決に向けて協働・共創の体制で取り組むことが求められています。そこでは大学の研究(知の創造)・教育(知の継承)そして地域(知の活用)の三つの側面が必要です。今後もこれまで培った協力関係をさらに拡大し、徳島を舞台に留学生・地域の人たち・大学といった関わる者すべてがともに学び続ける「多文化共生社会」の実現に向けて、活動を進めていきたいと考えます。

参考資料

- 1) とくしま異文化キャラバン隊ブログ(URL)
<http://caravantai.blogspot.com/>
- 2) 文化庁「日本語教育スタートアッププログラム」
http://www.bunka.go.jp/seisaku/kokugo_nihongo/kyoiku/seikatsusha_startup_program/index.htm
- 3) とくしま異文化キャラバン隊「多文化共生のまちづくり - 未来への第一歩 -」報告書 電子ブック
<https://www.isc.tokushima-u.ac.jp/app/wp-content/uploads/2018/03/b72bda3ec1db4e663620e9c5329793f4.pdf>



外国人遍路モニター活動< PLAN1 >